

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位	2単位	年次	1年次
使用教科書	実教出版『世界史A 新訂版』(実教出版)						
副教材	『最新世界史図説 タペストリー(十八訂版)』(帝国書院)						

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

中学で学んだ世界の歴史の内容が濃くなるので、特徴ある「世界史A」の教科書を通じて、前近代史では地誌を前提に、各地の歴史的展開を緩やかに理解する学習となり、近現代は「世界史B」と同程度の情報になるが、詳細な内容にはこだわらず、歴史的展開を中心に理解を深められるような授業展開を心掛ける。

2. 学習の到達目標

現実的には、2年次で詳細な世界史が学習できるように、基礎教養となる知識の習得を目指す。  
高校世界史で新たに登場する歴史情報への理解や、同時代の日本との対比などを含め、基礎教養としての世界史の習得が課題である。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断	c: 技能・表現	d: 知識・理解
観 点 の 主 旨	各時代は政治の体制や戦争・経済・社会・文化などで構成されるが、歴史を学ぶ上でそれらの事項に対して「なぜ」という視点から、関心を高められるような問いかけを徹底したい。	歴史に対する「なぜ」という視点を、社会の中の個人として、あるいは公益として、立場を変えて思考する中で、史実の理解が深まるように導きたい。	歴史学習を進める中で、歴史資料などを用いることで理解度を深め、その整理としての図式化などにチャレンジしたい。	歴史学習の集大成として、史実や歴史資料などに対する理解を総合的に習得できるように導きたい。
評 価 方 法	授業での観察 授業中の発問に対する生徒の回答	授業での観察 授業中の発問に対する生徒の回答や対話	授業での観察 グループワーク プレゼンテーション 小テスト 定期考査	授業での観察 授業中の発問に対する生徒の回答や対話 小テスト 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまともりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

月	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	前近代史	人類の誕生 東アジア世界 南アジア世界 東南アジア世界 西アジア世界 ヨーロッパ世界の形成	○	○	○	○	アジア各地の地誌や文明の特徴を理解  中世ヨーロッパ世界の特徴を理解	授業での観察 グループワーク 小テスト 定期考査
5								
6	前近代史	ヨーロッパ世界の形成 ルネサンス・宗教改革・大航海時代 絶対王政	○	○	○	○	ヨーロッパ世界の中世から近世への発展と、王権の強大化した絶対王政の特徴について理解	授業での観察 グループワーク 小テスト 定期考査 夏期休暇中のレポート
7								
8								
9	前近代・近代史	絶対王政 環大西洋革命 ウィーン体制	○	○	○	○	市民革命を通じて成立した近代市民社会と革命を否定する反動体制に対する理解	授業での観察 グループワーク 小テスト 定期考査
10	近代史	ウィーン体制 19世紀の欧米・アジア諸国 帝国主義時代	○	○	○	○	19世紀の反動体制に対する各国でのナショナリズム運動の展開についての理解 19世紀のアジア諸国に対する理解 帝国主義とその政策への理解	授業での観察 グループワーク 小テスト 定期考査
11	近現代史	第一次世界大戦 ヴェルサイユ体制 戦間期の欧米	○	○	○	○	帝国主義列強による世界大戦と戦後処理、戦後の国際情勢の変化に関する理解	授業での観察 グループワーク 小テスト 定期考査
12	近現代史		○	○	○	○		冬期休暇中のレポート
1	近現代史	ファシズムの台頭 第二次世界大戦 冷戦	○	○	○	○	世界恐慌により崩壊した国際協調体制とファシズムの台頭に起因する世界大戦への理解 戦後のイデオロギー対立に伴う冷戦状況に関する理解	授業での観察 グループワーク 小テスト 定期考査
2								
3								

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元 題材 で全ての観点について評価することとなるが、学習内容 小単元 の各項目において重点的に評価を行う観点もしくは重み付けを行う観点 について○を付けている。